神戸新聞NEWS
THE KOBE SHIMBUN

(2010/08/30 19:02)

八鹿病院の外科医自殺、公務災害と認定

公立八鹿病院（養父市）の整形外科の男性医師＝当時（３４）＝がうつ病になり、自殺したのは長時間勤務が原因として、地方公務員災害補償基金兵庫県支部（支部長・井戸敏三知事）は３０日、男性医師の死亡を公務災害と認定した。

医師は鳥取県出身で、２００７年１０月に同病院に着任。同月は１９０時間、１１月は１６０時間程度の時間外勤務をしてうつ病を発症し、１２月に宿舎で練炭自殺した。

遺族側の弁護士によると、同支部が公務災害を認定した理由として、過密勤務による強度の肉体的疲労や精神的ストレスによって精神疾患を発症し自殺したことを挙げたという。遺族は意見書で「自殺の原因は、上司のいじめなどパワーハラスメントもあった」と主張していたが、同支部は判断しなかった。

認定を受け遺族は「日本の医療現場が抱える現状を変えなければ、医師や患者にとって安心な医療は提供できない」と訴えた。同病院は「重く受け止めている。この様な災害が二度と起こらないよう万全の対策を講じる」とコメントした。

（藤原　学）